

## 授業概要（シラバス）

科目名	法学		担当者氏名		細貝 巖(弁護士)
	( 2 )単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1、法学の基礎知識について理解させる。2、日本国憲法について理解させる。 3、介護福祉士と法の関係について理解させる。4、介護における尊厳の維持・自立支援について理解させる。5、民法、行政法等基礎知識について理解させる。6、事例研究から現代社会の諸問題と介護福祉士の役割について理解させる。				
授業概要	1、法学の基礎知識(法の体系、法と道徳、法の存在形式と効力等)2、人間の尊厳と自立3、法学総論(憲法の意義、日本国憲法等)4、介護福祉士と法(介護福祉士と法との関係等)5、介護における尊厳の保持・自立支援(人権の尊重、権利擁護、アドボカシ-、後見制度等)6、人間の尊厳と福祉(人と福祉の法的関わり、介護における尊厳の保持、自立支援等)7、民法総論(総則、物権、契約、不法行為、親族(相続)等)8、行政法(行政組織、行政立法、行政処分、不服申し立て等)9、事例研究				
授業計画表	1	法学の基礎知識(法の体系 法の道徳 法の存在形式と効力等)			
	2	人間の尊厳と自立(人間の尊厳と自立)			
	3	法学総論(憲法の意義 日本国憲法等)			
	4	法学総論(日本国憲法の基本原理 統治機構等)			
	5	介護福祉士と法(介護福祉士と法の関係等)			
	6	介護福祉士と法(介護福祉士と法の関係等)			
	7	介護における尊厳の保持・自立支援(人間の尊厳 権利擁護 アドボカシ- 後見制度等)			
	8	介護における尊厳の保持・自立支援(人間の尊厳 権利擁護 アドボカシ- 後見制度等)			
	9	介護における尊厳の保持・自立支援(人間の尊厳 権利擁護 アドボカシ- 後見制度等)			
	10	人間の尊厳と福祉(人と福祉の法的関わり 介護における尊厳の保持 自立支援等)			
	11	人間の尊厳と福祉(人と福祉の法的関わり 介護における尊厳の保持 自立支援等)			
	12	民法総論(総則 物権 契約 不法行為 親族(相続)等)			
	13	行政法(行政組織 行政立法 行政処分 行政不服申し立て 情報公開等)			
	14	事例研究(介護福祉士人権擁護等)			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	試験やレポートの評価基準など定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	人間の理解(メディカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要(シラバス)

科目名	社会福祉概論		担当者氏名		江島 祥子 (豊岡短期大学非常勤講師)
	( 2 )単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1、現代社会における社会福祉の意義・理念について理解させる。 2、ライフスタイルの変化と福祉の考え方変遷を理解させる。 3、社会福祉の法体系・制度の要旨を理解させる。				
授業概要	1、生活と福祉 2、社会福祉の意義 3、社会福祉の法体系 4、社会福祉の動向 <b>【授業終了時の達成課題】</b> 社会福祉の意義・理念について理解させ、社会福祉の位置や今後の課題を展望させる。				
授業計画表	1	生活と福祉(家庭生活の基本機能)			
	2	" (生産・労働)			
	3	" (保険・福祉)			
	4	ライフスタイルの変化(雇用労働の進行)			
	5	" (雇用形態の変化)			
	6	" (少子化、健康寿命の延長)			
	7	社会保障制度 社会福祉の理念(福祉の概念とその変遷)			
	8	社会保障制度 社会福祉の法体系(社会福祉の法体系とその運営)			
	9	社会保障制度 " (憲法25条と社会福祉法)			
	10	社会保障制度 " (憲法25条と福祉六法)			
	11	社会福祉の動向(少子高齢化と社会扶助)			
	12	高齢者と家族 地域社会(自助、互助、公助)			
	13	社会福祉 地域福祉の展開(地域福祉の概念、地域社会の組織)			
	14	" (地域社会の組織化、エンパワメント)			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	人間と社会「社会の理解」(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要(シラバス)

科目名	高齢者福祉論 ( 2 )単位		担当者氏名		勢能順吉(元 特別養護老人ホーム大平園 園長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1、生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習2、数学と人間の関わりや社会生活における数学の応用の理解と数学的・理論的思考の学習3、家族・福祉・衣食住、消費生活等に関する基本的知識と技術の学習4、組織体のあり方、対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のありかたについての学習。5、現代社会基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習。				
授業概要	1、現代社会と高齢者問題 2、高齢者福祉制度の概要 3、介護保険制度の概要 4、高齢者福祉と関連分野の連携 【その他の社会保障関連制度についての学習】				
授業計画表	1	生活と福祉 少子・高齢社会の到来と意義			
	2	社会と福祉 日本の高齢社会の原因、特徴			
	3	社会保障制度 高齢化の国際比較			
	4	社会保障制度 高齢化がもたらす問題とそれへの対応			
	5	社会保障制度 高齢社会を支える社会福祉システム			
	6	社旗保障制度 社会福祉法の理念			
	7	社会保障制度 社会福祉法の理念			
	8	社会保障制度 社会福祉法の目的			
	9	社会保障制度 社会福祉法の内容			
	10	介護保険制度、介護保険制度の概要			
	11	〃			
	12	介護実践に関する諸制度 高齢者福祉と関連分野の連携			
	13	〃			
	14	〃			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	老人福祉論 「中央法規」				

## 授業概要(シラバス)

科目名	児童福祉論		担当者氏名		勢能順吉(元 特別養護老人ホーム 大平園 園長)
	( 2 )単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30時間
授業目標	1、生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習2、数学と人間の関わりや社会生活における数学の応用の理解と数学的・理論的思考の学習3、家族・福祉・衣食住、消費生活等に関する基本的知識と技術の学習4、組織体のあり方、対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のありかたについての学習。5、現代社会基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習。				
授業概要	1、地域福祉の概念 2、地域福祉の歴史 3、社会サービスと地域福祉 4、地域福祉の推進機関の業務と組織 5、地域福祉の専門技術 6、地方分権と地域福祉 7、地域福祉計画の推進 8、福祉教育の理念と実際 9、地域福祉推進と現代社会の諸課題 10、事例研究 <b>【その他の社会保障関連制度についての学習】</b>				
授業 計画 表	1	生活と福祉 地域福祉の概念(地域福祉の理論化 新しいシステム化)			
	2	社会と福祉 地域福祉の実態化と社会背景)			
	3	社会保障制度 社会サービスと地域福祉(地域福祉の要素、在宅福祉と施設福祉サービス等)			
	4	社会保障制度 社会サービスと地域福祉(地域福祉の要素、在宅福祉と施設福祉サービス等)			
	5	社会保障制度 地域福祉の推進機関の業務と組織			
	6	社会保障制度 地域福祉の専門技術(地域自立生活支援、コミュニティソーシャルワーク、ケアマネジメント等)			
	7	社会保障制度 地域分権と地域福祉(地方分権と住民参加 地域化等)			
	8	社会保障制度 地域福祉計画の推進(地域福祉計画の概要と歴史)			
	9	社会保障制度 地域福祉計画の推進(地域福祉計画の目的、方法、他法との関係)			
	10	介護実践に関する諸制度 福祉教育の理念と実際(福祉教育の理念、歴史。ボランティア活動、NPO活動等)			
	11	介護実践に関する諸制度 地域福祉推進と現代社会の諸課題)			
	12	事例研究(実践例)			
	13	事例研究(実践例 諸外国)			
	14	事例研究(実践例)			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	地域福祉論 「中央法規」				

## 授業概要(シラバス)

科目名	福祉事務所運営論 ( 2 )単位		担当者氏名		勢能順吉(元 特別養護老人ホーム 大平園 園長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30時間
授業目標	1、生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習2、数学と人間の関わりや社会生活における数学の応用の理解と数学的・理論的思考の学習3、家族・福祉・衣食住、消費生活等に関する基本的知識と技術の学習4、組織体のあり方、対人関係のあり方(リーダーとなった場合の)人材育成のありかたについての学習。5、現代社会基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習。				
授業概要	1、現代社会と福祉事務所の運営 2、福祉事務所の歴史 3、福祉事務所をめぐる法制度 4、福祉事務所の業務と組織 5、福祉事務所と関係社会資源との連携 6、福祉事務所の専門職員とその役割7、社会福祉主事の専門性と論理 8、社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開 9、福祉事務所における自立支援 【その他の社会保障関連制度についての学習】				
授業 計画 表	1	生活と福祉 現代社会と福祉事務所の運営(概論)			
	2	社会保障制度 福祉事務所の歴史			
	3	社会保障制度 福祉事務所をめぐる法制度			
	4	社会保障制度 福祉事務所をめぐる法制度			
	5	介護実践に関連する諸制度 福祉事務所の業務と組織			
	6	介護実践に関連する諸制度 福祉事務所と関係社会資源との連携			
	7	介護実践に関連する諸制度 福祉事務所の専門職員とその役割			
	8	介護実践に関連する諸制度 社会福祉主事の専門性と論理			
	9	介護実践に関連する諸制度 社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開			
	10	介護実践に関する諸制度 福祉事務所における自立支援			
	11	介護実践に関する諸制度 福祉事務所の運営をめぐる諸課題			
	12	事例研究(実践例)			
	13	事例研究(実践例 諸外国)			
	14	事例研究(実践例)			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	地域福祉論 「中央法規」				

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護福祉概論		担当者氏名		井口 貴代子(介護福祉士)
	(3)単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数	45 時間
授業目標	1、介護の目的・機能を理解させる。尊厳の保持と自立支援という新しい介護の考え方を理解する。2、介護と家族、医療・看護との関係並びに範囲について理解させる。 3、人間の発達と自立的な生活過程についての知識を持ち、高齢者や障害者の介護並びにその介護過程に対する援助について学ぶ。4、身体・精神の健康状態の変化に介護福祉専門職として対処しうる能力を養い、同時に医療・保健関係者との連携について学ぶ。				
授業概要	1、介護福祉士を取り巻く状況。(介護の歴史及び介護問題の背景) 2、介護福祉士の役割と機能を支える仕組み。3、介護の目的と必要性。 4、介護と家政、医療・看護との関係及びその範囲。5、介護福祉活動の場。 6、介護を必要とする人の理解。 7、介護援助関係論。 8、諸外国における介護福祉士及びその思想。 9、介護技法の基本。 10、介護関係維持の基本。 11、介護の職場 12、介護者の健康と安全 13、課題				
授業計画表	1	介護福祉を取り巻く状況。(介護の歴史及び介護問題の背景)			
	2	介護福祉を取り巻く状況。(介護の歴史及び介護問題の背景)			
	3	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ。(社会福祉士及び介護福祉士の法制定、介護福祉士の誕生)			
	4	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ。(社会福祉士及び介護福祉士の法制定、介護福祉士の誕生)			
	5	介護従事者の倫理(①介護の論理、原則(尊厳を支える介護、自立に向けた介護、人権尊重等)			
	6	介護従事者の倫理(①介護の論理、原則(尊厳を支える介護、自立に向けた介護、人権尊重等)			
	7	介護と家政、医療・看護との関係及びその範囲。(①自立的な生活維持に対するニーズと介護の機能)			
	8	介護と家政、医療・看護との関係及びその範囲。(②健康のメカニズムと不健康時のニーズ)			
	9	介護福祉士の活動の場(介護サービスの概要)			
	10	介護を必要とする人の理解(人間と生活の理解・人間の多様性・複雑性)			
	11	介護を必要とする人の理解(人間と生活の理解・高齢者の暮らし・介護を必要とする人の生活環境)			
	12	介護援助関係論(①一般援助関係論②援助者の援助特徴、利用者の特徴)			
	13	諸外国における介護福祉士及びその思想。			
	14	諸外国における介護福祉士及びその思想。			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験により、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等					

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護福祉概論		担当者氏名		井口 貴代子(介護福祉士)
	( 3 )単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	1、介護の目的・機能を理解させる。尊厳の保持と自立支援という新しい介護の考え方を理解する。2、介護と家族、医療・看護との関係並びに範囲について理解させる。3、人間の発達と自立的な生活過程についての知識を持ち、高齢者や障害者の介護並びにその介護過程に対する援助について学ぶ。4、身体・精神の健康状態の変化に介護福祉専門職として対処しうる能力を養い、同時に医療と保健関係者との連携について学ぶ。				
授業概要	1、介護福祉士を取り巻く状況。(介護の歴史及び介護問題の背景) 2、介護福祉士の役割と機能を支える仕組み。3、介護の目的と必要性。4、介護と家政、医療・看護との関係及びその範囲。5、介護福祉活動の場。6、介護を必要とする人の理解。7、介護援助関係論。8、諸外国における介護福祉士及びその思想。9、介護技法の基本。10、介護関係維持の基本。11、介護の職場 12、介護者の健康と安全 13、課題				
授業計画表	1	介護概論の意義。(人間の生活と介護の社会化。概論を学ぶ意義について理解する。)			
	2	介護の概念。(介護とは何か、介護の理念と定義が理解できる。)			
	3	介護の概念。(介護の理念とは何か、介護の専門性について理解できる。)			
	4	介護福祉の機能と役割。(①コミュニケーションや観察の意義と重要性の理解を深める。)			
	5	介護福祉の機能と役割。(②介護過程の意味するものと展開について理解する。)			
	6	利用者の理解と援助関係。(①援助関係を築く基本技術と利用者の理解を深める。)			
	7	利用者の関係と援助関係。(②健康の意義、老化(加齢)、病気について理解を深める。)			
	8	介護福祉と社会福祉援助技術。(①社会福祉援助技術の意義と直接援助と間接援助技術について理解を深める。)			
	9	介護福祉と社会福祉援助技術。(②生活援助の意義、重要性と介護福祉の果たす役割とは何かを理解する。)			
	10	介護の援助方法。(①身体的生活援助の基本的視点を深める。)			
	11	介護の援助方法。(②身体的生活援助の基本的視点を深める。)			
	12	介護の援助方法。(③社会生活維持の拡大と自立支援意義、重要性について深める。)			
	13	介護における安全確保。(健康管理の意義と安全確保の重要性を理解する。)			
	14	介護の連携とは。(チームワークの必要性が理解できる。)			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等					

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護コミュニケーション論		担当者氏名		鈴木好子(県聴覚障害者認定手話通訳) 江島祥子(豊岡短期大学非常勤講師)
	( 2 )単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	1、介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解する。 2、利用者本人及び利用者の家族とのコミュニケーション能力を身に付ける。 3、他職種協働におけるコミュニケーション能力を身に付ける。				
授業概要	1、介護におけるコミュニケーションの基本 2、介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本 3、介護場面における利用者の家族とのコミュニケーションの基本 4、利用者の状態に、状況に応じたコミュニケーション技法 介護におけるチームのコミュニケーション				
授業計画表	1	介護におけるコミュニケーションの基本(協議)			
	2	介護におけるコミュニケーションの基本(目的)			
	3	介護におけるコミュニケーションの基本(役割)			
	4	介護におけるコミュニケーションの基本(自分の姿を客観的に捉える)			
	5	介護におけるコミュニケーションの基本(自分の姿を客観的に捉える)			
	6	介護におけるコミュニケーションの基本(自分の姿を客観的に捉える)			
	7	介護におけるコミュニケーションの基本(言葉の理解)			
	8	介護におけるコミュニケーションの基本(言葉の理解)			
	9	介護におけるコミュニケーションの基本(言葉の理解)			
	10	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(話を聴き取る)			
	11	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(話を聴き取る)			
	12	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(会話をする)			
	13	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(会話をする)			
	14	介護におけるチームのコミュニケーション(会話したことを記録にまとめる)			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験により、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	コミュニケーション技術(メディカルフレンド社)				



平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護コミュニケーション論 ( 2 )単位		担当者氏名		鈴木好子(県聴覚障害者認定手話通訳) 江島祥子(豊岡短期大学非常勤講師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	1、介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解する。 2、利用者本人及び利用者の家族とのコミュニケーション能力を身に付ける。 3、他職種協働におけるコミュニケーション能力を身に付ける。				
授業概要	1、介護におけるコミュニケーションの基本 2、介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本 3、介護場面における利用者の家族とのコミュニケーションの基本 4、利用者の状態に、状況に応じたコミュニケーション技法 介護におけるチームのコミュニケーション				
授業計画表	1	介護におけるコミュニケーションの基本(自分の姿を客観的に捉える)			
	2	介護におけるコミュニケーションの基本(自分の姿を客観的に捉える)			
	3	介護におけるコミュニケーションの基本(言葉の理解。習得・合意・傾聴)			
	4	介護におけるコミュニケーションの基本(言葉の理解。習得・合意・傾聴)			
	5	介護におけるコミュニケーションの基本(言葉の理解。習得・合意・傾聴)			
	6	介護におけるコミュニケーションの基本(年中行事、生活習慣等の理解)			
	7	介護におけるコミュニケーションの基本(年中行事、生活習慣等の理解)			
	8	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(観察の方法・面接時の洞察力、共感の技法)			
	9	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(観察の方法・面接時の洞察力、共感の技法)			
	10	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(観察の方法・面接時の洞察力、共感の技法)			
	11	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(言葉や身振りの理解と問題の確認)			
	12	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション(言葉や身振りの理解と問題の確認)			
	13	介護におけるチームのコミュニケーション(学んできたことを記録にまとめる)			
	14	介護におけるチームのコミュニケーション(学んできたことを記録にまとめる)			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験により、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	コミュニケーション技術(メディカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護技術		担当者氏名		金澤ミチ子（看護師） 井口貴代子（介護福祉士）
	( 2 )単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>1、介護の基本技術(法)を習得、その原理を理解する。</p> <p>2、介護に適した環境・住設備機器及び福祉用具の使用方法を学ぶ。</p> <p>3、介護過程の展開方法について学ぶ。</p>				
授業概要	<p>1、生活支援2、自立に向けた居住環境の整理3、自立に向けた家事の介護</p> <p>4、自立に向けた身支度の介護5、自立に向けた排泄の介護6、自立に向けた移動の介助</p> <p>7、自立に向けた食事の介護8、自立に向けた入浴・清潔保持の介護9、自立に向けた福祉機器の活用</p> <p>10、状態の変化の確認と不調の兆しの発見11、医療、介護対応時の介護12、緊急事故時の対応</p> <p>13、自立に向けた睡眠の介護14、安楽と安寧の方法15、終末期の介護16、介護過程の展開</p>				
授 業 計 画 表	1	生活支援(尊厳の保持、生活の理解と支援)			
	2	生活支援(生活と介護)			
	3	自立に向けた居住環境の整備			
	4	自立に向けた居住環境の整備			
	5	自立に向けた家事の介護			
	6	自立に向けた身支度の介護			
	7	自立に向けた身支度の介護			
	8	自立に向けた排泄の介護			
	9	自立に向けた排泄の介護			
	10	自立に向けた移動の介助			
	11	自立に向けた食事の介護			
	12	自立に向けた食事の介護			
	13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護			
	14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	<p>定期試験の結果及び実技試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	生活支援技術( I )(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護技術		担当者氏名		金澤ミチ子(看護師) 井口貴代子(介護福祉士)
	( 2 )単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	1、介護の基本技術(法)を習得、その原理を理解する。 2、介護に適した環境・住設備機器及び福祉用具の使用方法を学ぶ。 3、介護過程の展開方法について学ぶ。				
授業概要	1、生活支援2、自立に向けた居住環境の整理3、自立に向けた家事の介護 4、自立に向けた身支度の介護5、自立に向けた排泄の介護6、自立に向けた移動の介助 7、自立に向けた食事の介護8、自立に向けた入浴・清潔保持の介護9、自立に向けた福祉機器の活用 10、状態の変化の確認と不調の兆しの発見11、医療、介護対応時の介護12、緊急事故時の対応 13、自立に向けた睡眠の介護14、安楽と安寧の方法15、終末期の介護16、介護過程の展開				
授 業 計 画 表	1	自立に向けた居住環境の整備			
	2	自立に向けた家事の介護			
	3	自立に向けた身支度の介護			
	4	自立に向けた身支度の介護			
	5	自立に向けた排泄の介護			
	6	自立に向けた排泄の介護			
	7	自立に向けた移動の介助			
	8	自立に向けた移動の介護			
	9	自立に向けた食事の介護			
	10	自立に向けた食事の介助			
	11	自立に向けた入浴・清潔保持の介護			
	12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護			
	13	自立に向けた福祉機器の活用			
	14	状態の変化の確認と不調の兆しの発見			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果及び実技試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	生活支援技術( I )(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護技術		担当者氏名		金澤ミチ子(看護師) 井口貴代子(介護福祉士)
	( 2 )単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>1、介護の基本技術(法)を習得、その原理を理解する。</p> <p>2、介護に適した環境・住設備機器及び福祉用具の使用方法を学ぶ。</p> <p>3、介護過程の展開方法について学ぶ。</p>				
授業概要	<p>1、生活支援2、自立に向けた居住環境の整理3、自立に向けた家事の介護</p> <p>4、自立に向けた身支度の介護5、自立に向けた排泄の介護6、自立に向けた移動の介助</p> <p>7、自立に向けた食事の介護8、自立に向けた入浴・清潔保持の介護9、自立に向けた福祉機器の活用</p> <p>10、状態の変化の確認と不調の兆しの発見11、医療、介護対応時の介護12、緊急事故時の対応</p> <p>13、自立に向けた睡眠の介護14、安楽と安寧の方法15、終末期の介護16、介護過程の展開</p>				
授 業 計 画 表	1	自立に向けた居住環境の整備			
	2	自立に向けた家事の介護			
	3	自立に向けた身支度の介護			
	4	自立に向けた身支度の介護			
	5	自立に向けた排泄の介護			
	6	自立に向けた排泄の介護			
	7	自立に向けた移動の介助			
	8	自立に向けた移動の介護			
	9	自立に向けた食事の介護			
	10	医療・介護対応時の介護			
	11	緊急事故時の対応			
	12	自立に向けた睡眠の介護			
	13	安楽と安寧の方法			
	14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	<p>定期試験の結果及び実技試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	生活支援技術( I )(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護技術 ( 2 )単位		担当者氏名		金澤ミチ子(看護師) 井口貴代子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>1、介護の基本技術(法)を習得、その原理を理解する。</p> <p>2、介護に適した環境・住設備機器及び福祉用具の使用方法を学ぶ。</p> <p>3、介護過程の展開方法について学ぶ。</p>				
授業概要	<p>1、生活支援2、自立に向けた居住環境の整理3、自立に向けた家事の介護</p> <p>4、自立に向けた身支度の介護5、自立に向けた排泄の介護6、自立に向けた移動の介助</p> <p>7、自立に向けた食事の介護8、自立に向けた入浴・清潔保持の介護9、自立に向けた福祉機器の活用</p> <p>10、状態の変化の確認と不調の兆しの発見11、医療、介護対応時の介護12、緊急事故時の対応</p> <p>13、自立に向けた睡眠の介護14、安楽と安寧の方法15、終末期の介護16、介護過程の展開</p>				
授 業 計 画 表	1	終末期の介護			
	2	終末期の介護			
	3	介護過程の展開			
	4	介護過程の展開			
	5	介護過程の展開			
	6	自立に向けた居住環境の整備			
	7	自立に向けた家事の介護			
	8	自立に向けた身支度の介護			
	9	自立に向けた排泄の介護			
	10	自立に向けた移動の介助			
	11	自立に向けた食事の介護			
	12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護			
	13	自立に向けた睡眠の介護			
	14	自立に向けた福祉機器の活用			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	<p>定期試験の結果及び実技試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	生活支援技術( I )(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	形態別介護技術 ( 2 )単位		担当者氏名 金澤ミチ子(看護師)	
			学習形態	
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数 30 時間
授業目標	障害を持つ人の生活支援の“根拠”となる知識ならびに障害者の置かれた条件に対応した生活支援の知識技術を習得する。			
授業概要	1、自立に向けた身支度の介護 2、自立に向けた家事の介護 3、自立に向けた移動の介護 4、自立に向けた入浴清潔の介護 5、自立に向けた排泄の介護 6、終末期の介護			
授業計画表	1-1	運動機能障害のある人の生活支援技術	2-6	高次脳機能障害のある人の生活支援技術
	1-2	内部障害のある人の生活支援技術	2-7	認知症の人の生活支援技術
	1-3	視覚障害のある人の生活支援技術	2-8	聴覚障害のある人の生活支援技術
	1-4	発達障害のある人の生活支援技術	2-9	言語に障害を認める人の生活支援技術
	1-5	精神障害のある人の生活支援技術	2-10	全介助を要する人及び難病の人の生活支援技術
	1-6	高次脳機能障害のある人の生活支援技術	3-1	運動機能障害のある人の生活支援技術
	1-7	認知症の人の生活支援技術	3-2	内部障害のある人の生活支援技術
	1-8	聴覚障害のある人の生活支援技術	3-3	視覚障害のある人の生活支援技術
	1-9	言語に障害を認める人の生活支援技術	3-4	発達障害のある人の生活支援技術
	1-10	全介助を要する人及び難病の人の生活支援技術	3-5	精神障害のある人の生活支援技術
	2-1	運動機能障害のある人の生活支援技術	3-6	高次脳機能障害のある人の生活支援技術
	2-2	内部障害のある人の生活支援技術	3-7	認知症の人の生活支援技術
	2-3	視覚障害のある人の生活支援技術	3-8	聴覚障害のある人の生活支援技術
	2-4	発達障害のある人の生活支援技術	3-9	言語に障害を認める人の生活支援技術
	2-5	精神障害のある人の生活支援技術	3-10	全介助を要する人及び難病の人の生活支援技術
	成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。		
使用テキスト等	生活支援技術Ⅱ(障害編) (メジカルフレンド社)			

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	形態別介護技術 ( 2 )単位		担当者氏名		金澤ミチ子(看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	障害を持つ人の生活支援の“根拠”となる知識ならびに障害者の置かれた条件に対応した生活支援の知識技術を習得する。				
授業概要	1、自立に向けた身支度の介護 2、自立に向けた家事の介護 3、自立に向けた移動の介護 4、自立に向けた入浴清潔の介護 5、自立に向けた排泄の介護 6、終末期の介護				
授業計画表	4-1	運動機能障害のある人の生活支援技術	5-6	高次脳機能障害のある人の生活支援技術	
	4-2	内部障害のある人の生活支援技術	5-7	認知症の人の生活支援技術	
	4-3	視覚障害のある人の生活支援技術	5-8	聴覚障害のある人の生活支援技術	
	4-4	発達障害のある人の生活支援技術	5-9	言語に障害を認める人の生活支援技術	
	4-5	精神障害のある人の生活支援技術	5-10	全介助を要する人及び難病の人の生活支援技術	
	4-6	高次脳機能障害のある人の生活支援技術	6-1	運動機能障害のある人の生活支援技術	
	4-7	認知症の人の生活支援技術	6-2	内部障害のある人の生活支援技術	
	4-8	聴覚障害のある人の生活支援技術	6-3	視覚障害のある人の生活支援技術	
	4-9	言語に障害を認める人の生活支援技術	6-4	発達障害のある人の生活支援技術	
	4-10	全介助を要する人及び難病の人の生活支援技術	6-5	精神障害のある人の生活支援技術	
	5-1	運動機能障害のある人の生活支援技術	6-6	高次脳機能障害のある人の生活支援技術	
	5-2	内部障害のある人の生活支援技術	6-7	認知症の人の生活支援技術	
	5-3	視覚障害のある人の生活支援技術	6-8	聴覚障害のある人の生活支援技術	
	5-4	発達障害のある人の生活支援技術	6-9	言語に障害を認める人の生活支援技術	
	5-5	精神障害のある人の生活支援技術	6-10	全介助を要する人及び難病の人の生活支援技術	
	成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。			
使用テキスト等	生活支援技術Ⅱ(障害編) (メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護過程		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
	( 2 )単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができるの力を養う。				
授業概要	1、介護過程の意義 2、介護過程の展開 3、介護過程の実践展開 4、介護過程とアプローチ				
授業計画表	1	介護過程の意義（現代社会の変化 介護過程とは？）			
	2	介護過程の意義（現代社会の変化 介護過程とは？）			
	3	介護過程の意義（介護過程の構成要素等）			
	4	介護過程の意義（介護過程の構成要素等）			
	5	介護過程の意義（介護過程の構成要素等）			
	6	介護過程の意義（介護過程の構成要素等）			
	7	介護過程の意義（ニーズの把握 生活上のニーズ ニーズの視点等）			
	8	介護過程の意義（ニーズの把握 生活上のニーズ ニーズの視点等）			
	9	介護過程の意義（ニーズの把握 生活上のニーズ ニーズの視点等）			
	10	ICFの思想(医学モデルと生活モデル 生活支援モデルでの介護過程等)			
	11	ICFの思想(ICFの概要 活動と参加の思想と現行法制度等)			
	12	事例紹介（介護過程の実践例）			
	13	事例紹介（介護過程の実践例）			
	14	事例紹介（介護過程の実践例）			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格として単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護過程(メジカルフレンド社)				



平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護過程 ( 2 )単位		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができるの力を養う。				
授業概要	1、介護過程の意義 2、介護過程の展開 3、介護過程の実践展開 4、介護過程とアプローチ				
授業計画表	1	介護過程の展開（介護過程の科学性）			
	2	介護過程の展開（ICFの活動と参加）			
	3	自立と参加（自律生活運動と介護過程）			
	4	自立と参加（リハビリテーションと介護過程 介護予防）			
	5	自立と参加（ノーマライゼーションと介護過程）			
	6	介護過程の展開(情報収集)			
	7	介護過程の展開(アセスメント)			
	8	介護過程の展開（ニーズの明確化と課題の抽出）			
	9	介護過程の展開（課題の優先順位）			
	10	介護過程の展開(介護計画の立案)			
	11	介護過程の展開(介護計画の立案)			
	12	事例紹介（介護過程の実践例）			
	13	事例紹介（介護過程の実践例）			
	14	事例紹介（介護過程の実践例）			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護過程(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護過程 ( 3 )単位		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	45 時間
授業目標	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる力を養う。				
授業概要	1、介護過程の意義 2、介護過程の展開 3、介護過程の実践展開 4、介護過程とアプローチ				
授業計画表	1	介護過程の展開（介護計画の意義・立案）			
	2	介護過程の展開（介護計画の援助方法の立案）			
	3	介護過程の展開（介護計画の援助方法の立案）			
	4	介護過程の展開(介護計画の構成要素)			
	5	介護過程の展開(介護計画の記入方法)			
	6	介護過程の展開(介護過程の構成要素)			
	7	介護過程の実践的展開(相談・面談・人間関係の形成)			
	8	介護過程の実践的展開（介護過程の実施）			
	9	介護過程の実践展開（介護過程の実施）			
	10	介護過程の実践的展開(実施記録の書き方)			
	11	介護過程の実践的展開(実施記録の書き方)			
	12	事例紹介（介護過程の実践例）			
	13	事例紹介（介護過程の実践例）			
	14	事例紹介（介護過程の実践例）			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護過程(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護過程 ( 3 )単位		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる力を養う。				
授業概要	1、介護過程の意義 2、介護過程の展開 3、介護過程の実践展開 4、介護過程とアプローチ				
授業計画表	1	介護過程の実践的展開（介護過程の評価の意義）			
	2	介護過程の実践的展開（評価作業の確認）			
	3	介護過程の実践的展開（評価記録の書き方）			
	4	介護過程の実践的展開(介護計画の修正)			
	5	介護過程とチームアプローチ(ケアカンファレンスの目的・運営)			
	6	介護過程とチームアプローチ(サービス担当者会議の目的・運営)			
	7	介護過程のチームアプローチ(他職種との連携)			
	8	介護過程とチームアプローチ（ケアマネジメントと介護過程）			
	9	介護過程とチームアプローチ（ケアマネジメントと介護過程）			
	10	介護過程のまとめ(介護計画の立案)			
	11	介護過程のまとめ(介護計画の実施)			
	12	介護過程のまとめ（介護計画の修正）			
	13	事例紹介（介護過程の実践例）			
	14	事例紹介（介護過程の実践例）			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護過程(メジカルフレンド社)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護総合演習 (2)単位		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等リエンテーション、実習後の事例報告会または、実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学週到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。				
授業概要	1、介護実習(施設) ①実習の目的 ②実習先・施設についての一般的理解 ③実習記録の書き方 ④実習中(通年の場合)あるいは、実習後の(集中の場合)指導 2、実習後の指導 3、事例研究				
授業 計画 表	1	1、施設介護実習 実習前、実習中指導 実習目標を明確にする			
	2	" ①実習の目的 1)施設介護実習の必要性を理解する。			
	3	" 2)カリキュラム中の実習の意味と重要性の理解			
	4	" 3)実習の目的意識を明確化(言語化、文章化してノートに記載する)			
	5	" ②実習先、施設について一般的理解 1)施設の種類と利用者、サービス内容の確認			
	6	" 2)準抛法灯を調べ理解する			
	7	" 3)施設側からの実習に関する諸注意事項の確認と準備			
	8	" 4)実習生から得られた資料等による実習の諸注意			
	9	" ③実習記録の書き方 1)実習ノートの使い方			
	10	" 2)実例に基づきながら記録の必要性和表現方法等の説明			
	11	" ④実習中(通年の場合)あるいは、 1)実習での感想を話し合う。			
	12	" 実習後の(集中の場合)集団指導 2)意見交換しながら、自身を振り返る			
	13	" 3)実習課題について検討			
	14	" 4)必要に応じ自己目標の立て直し、まとめ			
	15	2、実習後の指導 実習後の課題の明確化、事例発表の評価指導			
成績評価基準	実習の評価と授業内容における態度と提出物により単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護総合演習(メジカルフレンド社)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	介護総合演習 (2)単位		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等オリエンテーション、実習後の事例報告会または、実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学週到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。				
授業概要	1、介護実習(施設) ①実習の目的 ②実習先・施設についての一般的理解 ③実習記録の書き方 ④実習中(通年の場合)あるいは、実習後の(集中の場合)指導 2、実習後の指導 3、事例研究				
授業計画表	1	1、施設介護実習 実習前、実習中指導 実習目標を明確にする			
	2	" ①実習の目的 1)施設介護実習の必要性を理解する。			
	3	" 2)カリキュラム中の実習の意味と重要性の理解			
	4	" 3)実習の目的意識を明確化(言語化、文章化してノートに記載する)			
	5	" ②実習先、施設について一般的理解 1)施設の種類と利用者、サービス内容の確認			
	6	" 2)準抛法灯を調べ理解する			
	7	" 3)施設側からの実習に関する諸注意事項の確認と準備			
	8	" 4)実習生から得られた資料等による実習の諸注意			
	9	" ③実習記録の書き方 1)実習ノートの使い方			
	10	" 2)事例に基づきながら記録の必要性と表現方法等の説明			
	11	" ④実習中(通年の場合)あるいは、 1)実習での感想を話し合う。			
	12	" 実習後の(集中の場合)集団指導 2)意見交換しながら、自身を振り返る			
	13	" 3)実習課題について検討			
	14	" 4)必要に応じ自己目標の立て直し、まとめ			
	15	2、実習後の指導 実習後の課題の明確化、事例発表の評価指導			
成績評価基準	実習の評価と授業内容における態度と提出物により単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護総合演習(メジカルフレンド社)				

## 授業概要(シラバス)

科目名	介護総合演習 (2)単位		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30時間
授業目標	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等オリエンテーション、実習後の事例報告会または、実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学週到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。				
授業概要	1、介護実習(施設) ①実習の目的 ②実習先・施設についての一般的理解 ③実習記録の書き方 ④実習中(通年の場合)あるいは、実習後の(集中の場合)指導 2、訪問介護実習 3、実習後の指導 4、事例研究				
授業計画表	1	1、施設介護実習 実習前、実習中指導 実習目標を明確にする			
	2	" ①実習の目的 1)施設介護実習の必要性を理解する。			
	3	" 2)カリキュラム中の実習の意味と重要性の理解			
	4	" 3)実習の目的意識を明確化(言語化、文章化してノートに記載する)			
	5	" ②自習先、施設について一般的理解 1)施設の種類と利用者、サービス内容の確認			
	6	" 2)準拠法灯を調べ理解する			
	7	" 3)施設側からの実習に関する諸注意事項の確認と準備			
	8	" 4)実習生から得られた資料等による実習の諸注意			
	9	" ③実習記録の書き方 1)実習ノートの使い方			
	10	" 2)実例に基づきながら記録の必要性和表現方法等の説明			
	11	" ④実習中(通年の場合)あるいは、 1)実習での感想を話し合う。			
	12	" 実習後の(集中の場合)集団指導 2)意見交換しながら、自身を振り返る			
	13	" 3)実習課題について検討			
	14	" 4)必要に応じ自己目標の立て直し、まとめ			
	15	2、実習後の指導 実習後の課題の明確化、事例発表の評価指導			
成績評価基準	実習の評価と授業内容における態度と提出物により単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護総合演習(メジカルフレンド社)				

## 授業概要(シラバス)

科目名	介護総合演習 (2)単位		担当者氏名		井口貴代子(介護福祉士) 前野優子(介護福祉士)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等オリエンテーション、実習後の事例報告会または、実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学週到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。				
授業概要	1、介護実習(施設) ①実習の目的 ②実習先・施設についての一般的理解 ③実習記録の書き方 ④実習中(通年の場合)あるいは、実習後の(集中の場合)指導 2、訪問介護実習 3、実習後の指導 4、事例研究				
授業計画表	1	1、施設介護実習 実習前、実習中指導 実習目標を明確にする			
	2	" ①実習の目的 1)施設介護実習の必要性を理解する。			
	3	" 2)カリキュラム中の実習の意味と重要性の理解			
	4	" 3)実習の目的意識を明確化(言語化、文章化してノートに記載する)			
	5	" ②実習先、施設について一般的理解 1)施設の種類と利用者、サービス内容の確認			
	6	" 2)準拠法灯を調べ理解する			
	7	" 3)施設側からの実習に関する諸注意事項の確認と準備			
	8	" 4)実習生から得られた資料等による実習の諸注意			
	9	" ③実習記録の書き方 1)実習ノートの使い方			
	10	" 2)実例に基づきながら記録の必要性と表現方法等の説明			
	11	" ④実習中(通年の場合)あるいは、 1)実習での感想を話し合う。			
	12	" 実習後の(集中の場合)集団指導 2)意見交換しながら、自身を振り返る			
	13	" 3)実習課題について検討			
	14	" 4)必要に応じ自己目標の立て直し、まとめ			
	15	2、実習後の指導 実習後の課題の明確化、事例発表の評価指導			
成績評価基準	実習の評価と授業内容における態度と提出物により単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護総合演習(メジカルフレンド社)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	こころとからだのしくみ 医学一般		担当者氏名		長尾政之（医師）、荒井義彦（医師）、田辺一彦（医師）、高木正人（医師）、江部佑輔（医師）
	（ 2 ） 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標					
	人体の構造と働きや主な疾患、介助に関連した基本的な本知識を身につける。				
授業概要	1. こころのしくみの理解 2. からだのしくみ理解 3. 代表的な疾患の概要 4. 代表的疾患の概要 上記の内容を理解し、介護福祉士として専門的な能力を養う。				
授業 計 画 表	1	こころのしくみの理解	人間の要求、自己概念と尊敬		
	2	こころのしくみの理解	こころとしくみ		
	3	からだのしくみの理解	人体各部の体位を示す用語		
	4	からだのしくみの理解	人体の区分と部位		
	5	からだのしくみの理解	人体の概要		
	6	解剖、生理	骨格、筋系		
	7	解剖、生理	脳、神経系		
	8	解剖、生理	循環器系		
	9	解剖、生理	呼吸器系		
	10	解剖、生理	消化器系		
	11	解剖、生理	泌尿器系		
	12	解剖、生理	生殖器系		
	13	解剖、生理	血液、ホルモン系		
	14	解剖、生理	感覚器系		
	15	まとめ・試験			
成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	こころとからだのしくみ(医学一般) (メジカルフレンド社) からだの地図帳(講談社)				



## 授業概要（シラバス）

科目名	こころとからだのしくみ 医学一般		担当者氏名		長尾政之助（医師）、荒井義彦（医師）、田辺一彦（医師）、高木正人（医師）、江部佑輔（医師）、田崎紳一（医師）
	（ 2 ）単位		学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	人体の構造と働きや主な疾患、介助に関連した基礎的な知識を身につける。				
授業概要	1. こころのしくみの理解 2. からだのしくみ理解 3. 代表的な疾患の概要 4. 代表的疾患の概要 上記の内容を理解し、介護福祉士として専門的な能力を養う。				
授 業 計 画 表	1	代表的疾患の概要	呼吸器疾患		
	2	代表的疾患の概要	循環器疾患		
	3	代表的疾患の概要	腎臓、泌尿器疾患		
	4	代表的疾患の概要	消化器疾患		
	5	代表的疾患の概要	神経、筋疾患		
	6	代表的疾患の概要	血液、造血器疾患		
	7	代表的疾患の概要	内分泌代謝疾患		
	8	代表的疾患の概要	感染症		
	9	代表的疾患の概要	膠原病		
	10	代表的疾患の概要	神経疾患		
	11	代表的疾患の概要	感覚器疾患		
	12	代表的疾患の概要	運動疾患		
	13	代表的疾患の概要	皮膚疾患		
	14	代表的疾患の概要	口腔、先天性疾患		
	15	まとめ・試験			
成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	こころとからだのしくみ(医学一般) (メジカルフレンド社) からだの地図帳(講談社)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	こころとからだのしくみ 医学一般		担当者氏名		長尾政之助(医師)、荒井義彦(医師)、田辺一彦(医師)、高木正人(医師)、江部佑輔(医師)
	(2)単位		学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	人体の構造と働きや主な疾患、介護に関連した基礎的な知識を身につける。				
授業概要	<p>1.こころのしくみの理解、2.からだのしくみの理解、3.解剖・生理、4.代表的疾患の概要、5.身支度に関連したこころとからだのしくみ、6.移動に関連したこころとからだのしくみ、7.食事に関連したこころとからだのしくみ、8.入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ、9.排泄に関連したこころとからだのしくみ、10.睡眠に関連したこころとからだのしくみ、11.死にゆく人のこころとからだのしくみ</p> <p>上記の内容を理解し、介護福祉士として専門的な能力を養う。</p>				
授業計画表	1	身支度に関連したこころとからだのしくみ 身支度に関連する基礎知識			
	2	身支度に関連したこころとからだのしくみ 身支度に関連する基礎知識			
	3	身支度に関連したこころとからだのしくみ 身支度に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	4	身支度に関連したこころとからだのしくみ 身支度に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	5	移動に関連したこころとからだのしくみ 活動に関する基礎知識			
	6	移動に関連したこころとからだのしくみ 活動に関する基礎知識			
	7	移動に関連したこころとからだのしくみ 移動に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	8	移動に関連したこころとからだのしくみ 移動に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	9	移動に関連したこころとからだのしくみ 移動に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	10	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連する基礎知識			
	11	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連する基礎知識			
	12	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	14	食事に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	15	まとめ・試験			
成績評価基準	<p>定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	<p>こころとからだのしくみ(医学一般) (メジカルフレンド社)</p> <p>からだの地図帳(講談社)</p>				

## 授業概要（シラバス）

科目名	こころとからだのしくみ 医学一般		担当者氏名		長尾政之助(医師)、荒井義彦(医師)、田辺一彦(医師)、高木正人(医師)、江部佑輔(医師)
	(2)単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	人体の構造と働きや主な疾患、介護に関連した基礎的な知識を身につける。				
授業概要	1.こころのしくみの理解、2.からだのしくみの理解、3.解剖・生理、4.代表的疾患の概要、5.身支度に関連したこころとからだのしくみ、6.移動に関連したこころとからだのしくみ、7.食事に関連したこころとからだのしくみ、8.入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ、9.排泄に関連したこころとからだのしくみ、10.睡眠に関連したこころとからだのしくみ、11.死にゆく人のこころとからだのしくみ  上記の内容を理解し、介護福祉士として専門的な能力を養う。				
授業計画表	1	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 入浴・清潔保持に関連する基礎知識			
	2	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 入浴・清潔保持に関連する基礎知識			
	3	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	4	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・異常の発見			
	5	排泄に関連したこころとからだのしくみ 排泄の関連する基礎知識			
	6	排泄に関連したこころとからだのしくみ 排泄の関連する基礎知識			
	7	排泄に関連したこころとからだのしくみ 排泄の関連したこころとからだのしくみ。異常の発見			
	8	排泄に関連したこころとからだのしくみ 排泄の関連したこころとからだのしくみ。異常の発見			
	9	睡眠に関連したこころとからだのしくみ 睡眠に関連する基礎知識			
	10	睡眠に関連したこころとからだのしくみ 睡眠に関連する基礎知識			
	11	睡眠に関連したこころとからだのしくみ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ。異常の発見			
	12	睡眠に関連したこころとからだのしくみ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ。異常の発見			
	13	死にゆく人のこころとからだのしくみ 死の捉え方・終末期、死に対するこころの理解			
	14	死にゆく人のこころとからだのしくみ 死の捉え方・終末期、死に対するこころの理解			
	15	まとめ・試験			
成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	こころとからだのしくみ(医学一般) (メジカルフレンド社) からだの地図帳(講談社)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	医療的ケア (3)単位		担当者氏名		渡邊壽子(看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	後期	授業時間数	50 時間
授業目標	1 医療的ケアが必要な利用者・家族の気持ちを理解し、多職種との連携の理解ができる。 2 医療的ケアにおける身体の解剖・生理・感染予防を学ぶ。 3 「痰吸引」に関する呼吸器の構造、働きや感染予防・呼吸管理を学び、基本的な留意点と技術を学ぶ。 4 「経管管理」に関する消化器系の構造・働きや感染予防・管理方法を学び、安全に実施するための基本的知識を学ぶ。				
授業概要	1 医療的ケアを行う際の人間の尊厳の厳守、倫理観の確立と医療行為に関する多職種との連携を理解する。 2 医療的ケアにおける身体の解剖・生理・感染予防・「痰の吸引」の基本的知識を学ぶ。 3 「痰の吸引」の安全な技術を理解し習得する。 4 「経管管理」を行うための消化器系の仕組みや働きかけを理解する。 上記内容の理解を通じ、介護福祉士としての医療的ケアの知識を習得させる。				
授業計画表	1	人間と社会 保険医療制度とチーム医療 個人の尊厳と自立。医療の倫理。利用者の気持ちの理解。保険医療制度に関する制度。医療行為に関する法律。チーム医療と介護職員との連携。			
	2	安全な療養生活(痰の吸引や経管栄養の安全な実施。救急蘇生。救急蘇生の実際。)			
	3	清潔保持と感染予防(感染予防。職員の感染予防。療養環境の清潔。消毒法・滅菌と消毒。身体の健康)			
	4	健康状態の把握(身体の健康。健康状態を知るバイタルサイン。急変状態について)			
	5	高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論(呼吸の仕組みと働き。いつもと違う呼吸状態・痰の吸引とは)			
	6	高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論(人工呼吸器と吸引・こどもの吸引)			
	7	高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」概論 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、同意と説明。吸引器系の感染と予防。急変・事故発生時の対応と事前対策。			
	8	高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」実施手順・解説(痰の吸引で用いる器具・器材の仕組み。清潔の保持・吸引)			
	9	高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」実施手順・解説(痰の吸引で用いる器具・器材の仕組み。清潔の保持・吸引)			
	10	高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」実施手順・解説(吸引の技術と留意点。喀痰吸引に伴うケア、報告)			
	11	高齢者及び障害児・者の「痰の吸引」実施手順・解説(吸引の技術と留意点。喀痰吸引に伴うケア、報告)			
	12	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(消化器の仕組みと働き)消化吸収と消化器症状。経管栄養とは。注入する内容に関する知識。経管栄養実施上の留意点。			
	13	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」(消化器の仕組みと働き)消化吸収と消化器症状。経管栄養とは。注入する内容に関する知識。経管栄養実施上の留意点。			
	14	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 こどもの経管栄養について。経管栄養に関する感染予防。経管栄養を受ける利用者、家庭の気持ちと対応、説明と同意、経管栄養により生ずる危険・注入後の安全確認。			
	15	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」 実施手順解説 急変・事故発生時の対応と事前対策。経管栄養で用いる器具、器材の仕組み。清潔の保持。経管栄養の技術と留意点。			
成績評価基準	まとめ学習の理解80% レポート10% 学習態度10% 全体100% の内60%以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	医療的ケア(中央法規出版)				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	医療的ケア ( 2 ) 単位		担当者氏名		渡邊壽子（看護師）
			学習形態		演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	35 時間
授業目標	1 「経管栄養」の基本的な留意点と技術を学ぶ。 2 「痰の吸引」「経管栄養」の技術に関してはシミュレーターを活用して、実地的な技術を学ぶ。 3 「痰の吸引」「経管栄養」の基本的な技術を習得し1人で実施できる。				
授業概要	1 医療的ケア「痰の吸引」の安全な技術を理解し習得する。 2 演習により喀痰吸引、経管栄養の実施方法を習得する。 上記の演習を通じ、介護福祉士に必要な医療的ケアの実施の流れと留意点を習得させる。				
授 業 計 画 表	1	基本研修（演習）	喀痰吸引（口腔内吸引）		
	2	基本研修（演習）	喀痰吸引（口腔内吸引）		
	3	基本研修（演習）	喀痰吸引（口腔内吸引）		
	4	基本研修（演習）	喀痰吸引（鼻腔吸引）		
	5	基本研修（演習）	喀痰吸引（鼻腔吸引）		
	6	基本研修（演習）	喀痰吸引（鼻腔吸引）		
	7	基本研修（演習）	喀痰吸引（気管カニューレ吸引）		
	8	基本研修（演習）	喀痰吸引（気管カニューレ吸引）		
	9	基本研修（演習）	経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）		
	10	基本研修（演習）	経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）		
	11	基本研修（演習）	経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）		
	12	基本研修（演習）	経管栄養（胃ろうまたは腸ろう）		
	13	基本研修（演習）	経管栄養（経鼻）		
	14	基本研修（演習）	経管栄養（経鼻）		
	15	基本研修（演習）	救急蘇生法		
成績評価基準	まとめ学習の理解80% レポート10% 学習態度10% 全体100% の内60%以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護教員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規出版)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	社会福祉施設経営論 ( 2 ) 単位		担当者氏名		勢能順吉 (元 特別養護老人ホーム 大平園 園長)	
			学習形態		講義	
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間	
授業目標	①生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習、②数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習、③家族・福祉・衣食住・消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習、④組織体のあり方、対人関係のあり方、(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての学習、⑤現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習、⑥その他の社会保障関連制度についての学習					
授業概要	1.社会福祉施設の意義と種類、2.社会福祉施設をめぐる関連制度、3.社会福祉施設の歩み(歴史)、4.社会福祉施設の運営と管理、5.社会福祉施設の経営管理の基本領域、6.社会福祉施設の組織管理、7.社会福祉施設の人事管理、8.社会福祉施設の労務管理、9.社会福祉施設の財務・会計管理、10.社会福祉施設のサービス管理、11.社会福祉施設の情報管理、12.社会福祉施設の危機・安全管理、13.社会福祉施設の戦略対応、14.社会福祉主事の役割、15.事例研究 上記内容の理解を通じ、社会福祉主事に必要な社会福祉施設経営の知識を十分習得させる。					
授業 計 画 表	1	生活と福祉	社会福祉施設の意義と種類			
	2	生活と福祉	社会福祉施設の意義と種類			
	3	生活と福祉	社会福祉施設の意義と種類			
	4	生活と福祉	社会福祉施設の意義と種類			
	5	社会保障制度	社会福祉施設をめぐる法制度			
	6	社会保障制度	社会福祉施設をめぐる法制度			
	7	社会保障制度	社会福祉施設をめぐる法制度			
	8	社会保障制度	社会福祉施設をめぐる法制度			
	9	社会保障制度	社会福祉施設をめぐる法制度			
	10	障害者自立支援制度	社会福祉施設をめぐる法制度			
	11	障害者自立支援制度	社会福祉施設をめぐる法制度			
	12	社会福祉施設の歩み(歴史)				
	13	社会福祉施設の歩み(歴史)				
	14	社会福祉施設の歩み(歴史)				
	15	まとめ、試験				
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。					
使用テキスト等	社会福祉施設経営論(光生館)					

## 授業概要（シラバス）

科目名	社会福祉施設経営論 ( 2 ) 単位		担当者氏名		勢能順吉（元 特別養護老人ホーム大平園 園長）
			学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	①生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習、②数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習、③家族・福祉・衣食住・消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習、④組織体のあり方、対人関係のあり方、(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての学習、⑤現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習、⑥その他の社会保障関連制度についての学習				
授業概要	1.社会福祉施設の意義と種類、2.社会福祉施設をめぐる関連制度、3.社会福祉施設の歩み(歴史)、4.社会福祉施設の運営と管理、5.社会福祉施設の経営管理の基本領域、6.社会福祉施設の組織管理、7.社会福祉施設の人事管理、8.社会福祉施設の労務管理、9.社会福祉施設の財務・会計管理、10.社会福祉施設のサービス管理、11.社会福祉施設の情報管理、12.社会福祉施設の危機・安全管理、13.社会福祉施設の戦略対応、14.社会福祉主事の役割、15.事例研究 上記内容の理解を通じ、社会福祉主事に必要な社会福祉施設経営の知識を十分習得させる。				
授 業 計 画 表	1	社会福祉施設の運営と管理(概論)			
	2	社会福祉施設の経営管理と基本領域			
	3	社会福祉施設の組織管理			
	4	社会福祉施設の人事管理			
	5	社会福祉施設の労務管理			
	6	社会福祉施設の財務、会計管理			
	7	社会福祉施設のサービス管理			
	8	社会福祉施設の情報管理			
	9	社会福祉施設の危機・安全管理			
	10	社会福祉施設の戦略対応			
	11	社会福祉主事の役割			
	12	事例研究			
	13	事例研究			
	14	事例研究			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	社会福祉施設経営論(光生館)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	国家試験対策 ( 2 ) 単位		担当者氏名		井口貴代子（介護福祉士）
			学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	①生物や人間等の「生命」の基本的しくみの学習、②数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習、③家族・福祉・衣食住・消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習、④組織体のあり方、対人関係のあり方、(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての学習、⑤現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現在社会を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習、⑥その他の社会保障関連制度についての学習				
授業概要	介護福祉士の国会試験対策として、総合的知識の習得を目指す。想定問題の回答、解説も行う。 上記内容の理解を通じ、介護福祉士国家試験に合格させる。				
授業 計 画 表	1	社会保障制度 介護福祉士国家試験の概要(国家試験の概要 試験対策方法等)			
	2	人間と社会(人間の尊厳と自立)			
	3	人間と社会(人間関係とコミュニケーション)			
	4	人間と社会(社会の理解)			
	5	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ 介護(介護の基本)			
	6	介護(コミュニケーション)			
	7	介護(生活支援技術)			
	8	介護(介護過程)			
	9	こころとからだのしくみ(発達と老化の理解)			
	10	こころとからだのしくみ(認知症の理解)			
	11	こころとからだのしくみ(障害の理解)			
	12	こころとからだのしくみ(こころとからだのしくみ)			
	13	こころとからだのしくみ(医学一般)			
	14	模擬試験(1)			
	15	模擬試験(2)			
成績評価基準	毎回実施する、ミニ試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	介護福祉士模擬問題集(中央法規)				



## 授業概要（シラバス）

科目名	リハビリテーション論		担当者氏名		安達 篤(安達カイロプラティック 院長)
	( 2 ) 単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1 リハビリテーションの理念と基本原則を理解させる。 2 障害の程度とその影響を理解させる。 3 リハビリテーションの展開過程について理解させる。 4 日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助について理解させる。				
授業概要	1 リハビリテーションの理念と基本原則。 2 リハビリテーションの展開過程。 3 社会的リハビリテーション 4 事例研究。  上記内容の理解を通じ、介護福祉士としての必要なリハビリテーションの知識を十分習得させる。				
授業 計画 表	1	リハビリテーションの概念及び基本原則。(尊厳を支える介護) リハビリテーションの発展と現代社会における需要。			
	2	リハビリテーションにおける総合的サービス体系。 医学的・社会的リハビリテーションの基礎(理念・障害論)			
	3	自立に向けた介護(リハビリテーションの展開過程)(個別ケアとICFの視点)			
	4	リハビリテーション計画と実施の過程及び目標設定。			
	5	介護を必要とする人の理解。(個人的特性の把握)(ADL評価と職業評価)			
	6	介護を必要とする人の理解。(社会参加の実現)リハビリテーションと福祉用具、住居の改造)			
	7	社会的リハビリテーション(リハビリテーションに関わる社会資源)			
	8	日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助。			
	9	リハビリテーション専門分野との連携。(介護予防)			
	10	リハビリテーション専門分野との連携。(介護予防)			
	11	障害に応じた事例研究。病院・施設におけるリハビリテーション			
	12	障害に応じた事例研究。在宅におけるリハビリテーション			
	13	障害に応じた事例研究。終末期リハビリテーション			
	14	障害に応じた事例研究。地域リハビリテーション			
	15	まとめ、試験			
成績評価基準	定期試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	リハビリテーション論(中央法規出版)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	精神保健		担当者氏名		田崎紳一(医師)
	(2)単位		学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	増大している認知症の分野で必要とされる基礎的な知識を養う。				
授業概要	1. 認知症を取り巻く状況、2. 医学的側面から見た認知症の基礎、3. 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活、4. 連携と協働、5. 家族への支援				
授業計画表	1	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史、認知症ケアの理念、認知症高齢者の現状と今後			
	2	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史、認知症ケアの理念、認知症高齢者の現状と今後			
	3	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症による障害			
	4	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症による障害 記憶障害			
	5	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症による障害 失語・失行・失認・その他			
	6	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症と間違えられやすい症状 うつ病			
	7	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症と間違えられやすい症状 せん妄			
	8	医学的側面から見た認知症の基礎 アルツハイマー病・若年性認知症			
	9	医学的側面から見た認知症の基礎 脳血管性疾患			
	10	医学的側面から見た認知症の基礎 レビー小体病			
	11	医学的側面から見た認知症の基礎 ビック病			
	12	医学的側面から見た認知症の基礎 クロイツフェルト・ヤコブ病			
	13	医療的側面から見た認知症の基礎 その他(慢性硬膜血腫等)			
	14	病院で行われる検査・治療の実際(検査・治療・予防)			
	15	まとめ・試験			
成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	こととからだのしくみ(認知症の理解) (メヂカルフレンド社)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	精神保健 ( 2 ) 単位		担当者氏名		田崎紳一（医師）
			学習形態		講義
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	増大している認知症の分野で必要とされる基礎的な知識を養う。				
授業概要	1. 認知症を取り巻く状況、2. 医学的側面から見た認知症の基礎、3. 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活、4. 連携と協働、5. 家族への支援				
授 業 計 画 表	1	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	認知症の人の特徴的な心理		
	2	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	認知症の人の特徴的な心理		
	3	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	認知症の人の特徴的な心理		
	4	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	認知症の人の特徴的な心理		
	5	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	認知症の人の特徴的な心理		
	6	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 の影響	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響		
	7	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 の影響	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響		
	8	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 の影響	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響		
	9	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 の影響	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響		
	10	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 の影響	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響		
	11	連携と協議	地域におけるサポート体制		
	12	連携と協議	地域におけるサポート体制		
	13	家族への支援			
	14	家族への支援			
	15	まとめ・試験			
成績評価基準	定期試験及びレポートの結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	ところとからだのしくみ(認知症の理解) (メヂカルフレンド社)				

## 授業概要（シラバス）

科目名	観察実習 (12)単位		担当者氏名		
			学習形態		実習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	実習1・II	授業時間数	181・362(543)時間
授業目標	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践介護技術の確認・他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>②個別ケアを行う為に個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>				
授業概要	<p>実習（I）</p> <p>①観察実習（高齢者施設）・・・5日間</p>				
授業計画表	1	1 観察実習（高齢者施設）			
	2	①施設の概要を理解する。②利用者の概要を理解する。③施設の援助目標を理解する。④利用者の生活と			
	3	介護職員の役割・業務を理解する。⑤利用者と自分からコミュニケーションが図れる。⑥基礎的介護技術を			
	4	必要とする利用者の状態が観察できる。⑦観察したこと、感じたこと、学んだこと、実施したことが記録として			
	5	整理できる。			
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	<p>実習の評価及び記録物の提出状況と学校内における態度により単位を認定する。</p> <p>資格取得に必要な所定日数（時数）を満たした者。</p>				
使用テキスト等	学園で作成する実習手引き				

## 授業概要（シラバス）

科目名	基礎実習		担当者氏名		実習
	( 12 )単位		学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	実習1・Ⅱ	授業時間数	181・362(543)時間
授業目標	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践介護技術の確認・他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>②個別ケアを行う為に個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>				
授業概要	<p>実習(Ⅰ)</p> <p>③基礎実習(高齢者施設)・・・12日間</p>				
授業計画表	1	3 基礎実習			
	2	①利用者と目的を持ってコミュニケーションが図れる。②基礎的介護技術を必要とする利用者の状態が観察			
	3	できる。③介護技術実践における注意点裏づけを理解する。④利用者の状態、状況を把握した上で			
	4	基礎的な介護技術を実践する。(利用者の状態、状況を把握する。状態、状況に合わせた援助方法を考え、			
	5	実践する。⑤観察したこと、感じたこと、学んだこと、実施したことが記録として整理できる。			
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	<p>実習の評価及び記録物の提出状況と学校内における態度により単位を認定する。</p> <p>資格取得に必要な所定日数（時数）を満たした者。</p>				
使用テキスト等	学園で作成する実習手引き				

## 授業概要（シラバス）

科目名	身体障害者施設実習 (12)単位		担当者氏名		
			学習形態		実習
学科 開講学年	介護福祉学科 1年	開講期	実習1・II	授業時間数	181・362(543)時間
授業目標	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践介護技術の確認・他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>②個別ケアを行う為に個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>				
授業概要	<p>実習(1)</p> <p>②身体障害者施設実習(身体障害者療護施設)・・・6日間</p>				
授業計画表	1	2 身体障害者施設実習(身体障害者療護施設)			
	2	①施設と利用者の概要を理解する。(設備、年齢、男女比、障害等の把握)②施設の日課と利用者の生活を			
	3	理解する。③ノーマライゼーションの考え方を学ぶ。(自立支援、QOL向上のための援助内容の理解。)			
	4	④積極的にコミュニケーションを図る。⑤基礎的な介護の見学、実践を行う。⑥観察したこと、感じたこと、			
	5	学んだこと、実施したことが記録として整理できる。			
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	<p>実習の評価及び記録物の提出状況と学校内における態度により単位を認定する。</p> <p>資格取得に必要な所定日数(時数)を満たした者。</p>				
使用テキスト等	学園で作成する実習手引き				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	応用実習 ( 24 )単位		担当者氏名		実習
			学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	実習Ⅰ・Ⅱ	授業時間数	181・362(543)時間
授業目標	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践介護技術の確認・他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>②個別ケアを行う為に個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>				
授業概要	<p>実習(Ⅰ) ④応用実(高齢者施設)・・・12日間</p>				
授業計画表	1	4 応用実習(高齢者施設)			
	2	①利用者のニーズを図り、ケアプランの基礎を学ぶ。(比較的コミュニケーションの関係の良好な対象者を設定し			
	3	個人と人間的なふれあいを通じて全般的なニーズを把握し、援助策を考える。アセスメント用紙の記入。			
	4	ケアプラン表の記入。)②障害に応じた介護技術の実践を行う。(障害の軽度な対象者を通じて、対象に応じた			
	5	介護の実践を行う。)③他チームとの連携について理解する。④観察したこと、感じたこと、学んだこと、			
	6	実施したことが記録として整理できる。			
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	<p>実習の評価及び記録物の提出状況と学校内における態度により単位を認定する。 資格取得に必要な所定日数(時数)を満たした者。</p>				
使用テキスト等	学園で作成する実習手引き				

平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	総合実習		担当者氏名		実習
	( 24 )単位		学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	実習Ⅰ・Ⅱ	授業時間数	181・362(543)時間
授業目標	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践介護技術の確認・他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>②個別ケアを行う為に個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>				
授業概要	<p>実習(Ⅱ) ①総合実習・・・20日間</p>				
授業計画表	1	6 総合実習			
	2	①利用者に対する理解を深め、ケアプランを立案し、その対応を実践する。(アセスメント用紙記入、観察経過			
	3	記録の記入、チームワークの必要性を学び実践する。) ②援助全体の理解を深め、余暇利用、機能訓練を含む介護			
	4	介護技術を習得する。(レクリエーションのプログラミングと実践。) ③記録方法について学ぶ。(介護職員として必要な記録			
	5	について理解を深め、更にその記録方法について学ぶ。④観察したこと、感じたこと、学んだこと、実施したことが記録できる。			
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	<p>実習の評価及び記録物の提出状況と学校内における態度により単位を認定する。</p> <p>資格取得に必要な所定日数（時数）を満たした者。</p>				
使用テキスト等	<p>学園で作成する実習手引き</p>				



平成31年度

## 授業概要（シラバス）

科目名	居宅実習		担当者氏名		実習
	( 24 )単位		学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	実習Ⅰ・Ⅱ	授業時間数	181・362(543)時間
授業目標	<p>①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践介護技術の確認・他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>②個別ケアを行う為に個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>				
授業概要	<p>実習(Ⅰ) ⑤居宅実習・・・2日間</p>				
授業計画表	1	5 居宅実習			
	2	①訪問介護の特性を理解する。(生活、家族形態の違いによる援助の違いを理解する。家族との連携、			
	3	保健医療福祉の連携について理解する。個別の介護過程の展開について学ぶ) ②観察したこと、			
	4	感じたこと、学んだこと、実施したことが記録として整理できる。			
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	<p>実習の評価及び記録物の提出状況と学校内における態度により単位を認定する。 資格取得に必要な所定日数（時数）を満たした者。</p>				
使用テキスト等	<p>学園で作成する実習手引き</p>				

## 授業概要（シラバス）

科目名	社会福祉主事現場実習(社会福祉主事)		担当者氏名		
	( 6 )単位		学習形態		
学科 開講学年	介護福祉学科 2年	開講期	前期	授業時間数	90 時間
授業目標	1、講義・演習、学校内で学んだ知識に基づいて、利用者と人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護の重要に関する理解力、判断力を養う。 2、社会福祉主事としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能、倫理及び自己に求められる課題は把握など、総合的対応力を習得できるよう指導する。相談援助に係る知識や技術については、体験実習の現場において実際に体験する。				
授業概要	【授業全体の内容の概要】 社会福祉現場実習 12日間（福祉事務所、社会福祉施設、身体障害者更生相談所 等） 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 体験実習を通じて学んだ知識、技術等を理解し、社会福祉専門職としての能力を養う。				
授業計画表	1	社会福祉現場実習			
	2	(大目標) ①施設(福祉事務所、社会福祉施設、身体障害者更生相談所等)の概要を理解する			
	3	②利用者の概要を理解する。			
	4	③施設(福祉事務所、社会福祉施設、身体障害者更生相談所等)の援助目標を理解する。			
	5	④利用者の生活と社会福祉専門職の役割・業務を理解する。			
	6	⑤利用者あるいはその家族と自分からコミュニケーションを図る。			
	7	⑥利用者あるいはその家族のニーズを把握する。対象者個人あるいは家族との人間的な			
	8	触れあいを通じて全般的なニーズを把握し、援助策を考える。			
	9	⑦観察したこと、感じたこと、学んだこと、実施したことが記録として整理できる。			
	10	(重点事項)			
	11	※利用者、実習施設職員、地域住民等と基本的なコミュニケーションが出来るようになる。			
	12	※利用者やその他の家族等との援助関係の形成及び権利擁護、人権の尊重に基づく援助を学ぶ。			
	13	※多(他)職種連携等、チームアプローチの実際に触れ、社会福祉主事としての役割・業務を理解する。			
	14	※社会福祉主事としての業務倫理、実習施設の就業規則の理解等、社会人と基礎を身に付ける。			
	15	※ソーシャルワークの具体的方法(面接技術・コミュニケーション技術・ケアマネジメント等)を学び、その展開方法を理解する。			
14	※記録物等個人情報の保護について、その意義、管理方法について学ぶ。				
成績評価基準	実習の評価及び記録物の提出状況と学校内における態度により単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	学園で作成する実習手引き				